

Top Interview

— 変革に挑む —

まとめ／堀水潤一 撮影／伊藤 誠

つくば国際大学
学長

高塚千史



ニーズ高まる診療放射線学科を 来年度、開設する予定。 医療分野で地域貢献の役割を担う

1 1994年に産業社会学部1学部でスタートした本学は、2007年に医療保健学部(理学療法学科、看護学科)を設置、09年には保健栄養学科を新設しました。附属高校での実績や、地域のニーズを考えたとき、医療分野で地域貢献の役割を担うべきと考えたからです。

医療系の国家資格は4年生になってから頑張れば合格できるほどやさしい試験ではありません。そのため1年生の早い時期から学習習慣をつけるよう力を注いでいます。ただし、単なる資格取得のための授業であってはならないと思っています。周辺の医療機関と連携しながら、実習や演習を中心に、実践的な人材を養成しようというのが基本的

な考え方です。

語学や教養教育にも力を入れているのは人間形成をしっかりと身につけた倫理観の高い医療人になってほしいからです。学生と食事を共にするなど、先生方も、努めて学生と話をするようにしています。師弟の信頼関係があつてこそ、学びは深まるはず。人間関係を大切にする大学でありたいと考えています。

そうした姿勢が浸透してきたことに加え、東日本大震災をきっかけに、医療を学ぶ学生の姿勢が変わってきたように感じます。特に、実習時の患者さんへの対応の仕方に変化が表れました。今までは、どちらかというと、「気持ち」より「言葉」が先行しがちでしたが、最近では、相手の立場を理解しようとするな

ど、患者さんに寄り添いながらのコミュニケーションができてきました。

13年度には、医療分野でニーズが高まる「診療放射線学科」を開設する予定です。その後も、医療系の学科を増やししながら、医療系大学としての体制を固めていくつもりです。

同学校法人の保育園、幼稚園、小学校、高校、短期大学とも連携を深めるほか、将来的には、診療所や老人ホームなど、教育と現場を密着させる施設を設置し、地域に貢献したいと考えています。

地域連携という点では、地元ケーブルテレビとの番組共同制作(メディア社会学科)、市民マラソンにおけるスポーツマツサージ所の開設(理学療法学科)、土浦市の防災マニュアル制作(社会福祉学科)など、各学科で地域と連携しています。そうした活動が、就職希望者の約7割(11年度)が茨城県内に就職するという地域に根差した大学としての評価を高めていると思います。

本学は、花実両全の白梅を理想とし、「寒苦風雪に耐え、百花に先駆けて香り高く開花し、やがて立派な実を結ぶ」を建学の精神としています。もし入学時点で課題があつたとしても、4年後に花を咲かせ、社会で長く活躍する。そんな人材を育てたく思います。

【学長プロフィール】たかつか・かずふみ●1956年生まれ。92年学校法人霞ヶ浦学園理事長就任。2002年より現職。土浦商工会議所議員、中川育英会理事、社団法人茨城県私学教育振興会理事。

【大学プロフィール】1994年創立。産業社会学部(メディア社会学科、社会福祉学科)、医療保健学部(理学療法学科、看護学科、保健栄養学科)の2学部5学科。